



保険商品の機動的な市場投入のため 開発期間の大幅な短縮を実現し、 システムの自社内製化基盤を確立

日新火災海上保険株式会社では、保険商品の開発から市場投入までの期間を短縮するため、開発効率／保守効率の高いシステム構築が求められており、その対策としてBRMS（ビジネスルール管理システム）を導入。複雑なビジネスロジックを持つ「労働災害総合保険」の保険料見積りシステムの開発期間を、従来型開発に比べて約30%短縮することに成功しました。



日新情報システム開発株式会社

日新火災海上保険株式会社

お客さま本位の安心と補償をお届けし、最も身近で信頼されるリテール損害保険会社を目指すことを経営理念に掲げ、リテールマーケットを対象として自動車保険、火災保険、積立型傷害保険などの多彩な損害保険商品を展開。

本社：東京都千代田区神田駿河台2丁目3番地
設立：1908年
資本金：203億円
従業員数：2,292名（2017年3月31日現在）
URL：http://www.nisshinfire.co.jp/

（取材日：2017年4月）

POINT

Progress Corticonの機能性／操作性
やルールの可視性を活かして
効率的な開発を実現

今後、ルールとシステム・アーキテクチャ
の両方を横展開して
自社内製化する基盤を準備

BRMS適用システムの開発経験が
豊富で技術力の高い開発パート
ナーを選定

課題

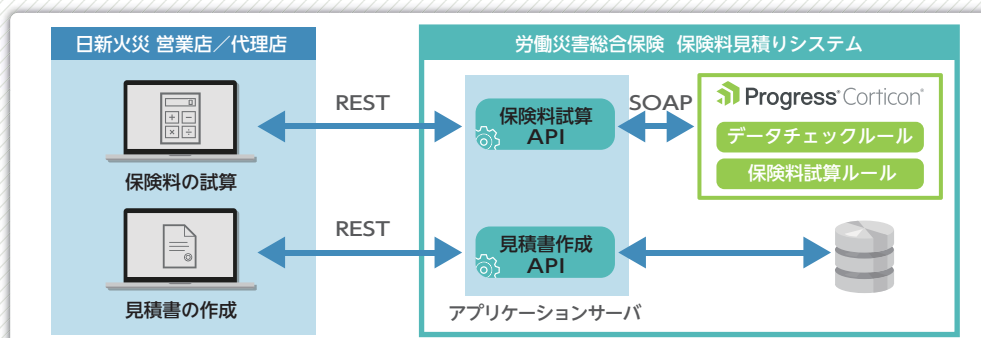
- 保険商品の機動的な市場投入のためにはシステム開発期間の短縮と保守効率の向上が必要
- 「労働災害総合保険」の保険料見積りシステムの開発環境が最新のOSに未対応
- バージョンアップするためには多額の費用と期間が必要

対策

- 既存の見積りシステムを改修／継続使用するのではなく、新規にシステムを構築
- BRMSを導入し、効果が見込める部分を見極めて適用
- ノウハウ蓄積のため、最初のシステム開発は実績が豊富なパートナーに依頼

効果

- BRMS適用部分は約50%、システム構築全体では約30%の開発期間短縮を実現
- ルールが可視化されたことで、今後の商品改定にもスムーズに対応可能
- 今回の開発経験を活かし、今後は自社内製化を推進
- 他の保険商品や複雑な保険事務など、幅広い分野への展開を期待



開発を担当した株式会社オーグス総研
マネージャー 池尻薫氏（左）
道地美希氏（右）

Progress Corticon

企業競争力向上のために不可欠な システム開発の期間短縮と コスト圧縮

リテールマーケットを対象として自動車保険「ユーサイド」、火災保険「住宅安心保険、住自在、マンションドクター火災保険」、賃貸入居者向け家財保険「お部屋を借りるときの保険」、積立型傷害保険「ジョイエ傷害保険」などの多彩な保険商品を展開する日新火災海上保険では、競争力をより高めるために、保険商品の開発から市場投入までの期間の短縮と開発コストの圧縮が求められていました。日新火災海上保険のシステム開発／運営全般を一手に担う日新情報システム開発株式会社（以下、日新情報システム開発）システム開発1部 火新契約グループ 担当課長 吉田 史郎氏は、次のように語ります。

吉田氏 各保険商品とも定期的に商品改定を行っています。これまでのシステム開発期間にだいたい1年くらいかけていました。しかしそれでは、なかなか機動的な動きが取れません。そのため、何年も前から開発期間短縮や開発コストの圧縮が課題となっており、解決策として複雑な保険のルールを一括管理できるBRMSの導入が有効と考え、数年前から様々な製品を調査していました。



吉田史郎氏

日新情報システム開発 システム開発3部 オープンシステムグループ 担当課長 野口 一臣氏は続けます。

野口氏 最近注目されているアジャイル開発は、仕様変更しながら開発していくので、そこにBRMSが活用できるのではないかとずっと考えていました。なかなか使うきっかけはありませんでしたが、懸念事項の課題解決のためにはBRMSが必要と考え、2015年秋にいよいよ本格的に導入の検討を開始しました。

経験のないBRMSを新たに導入する不安を払拭した、手厚い導入前サポート

様々なBRMS製品の機能や価格を調査した結果、最終的に2製品に絞り、さらに具体的な検討を進めました。

野口氏 初めてBRMSを導入する不安がありましたが、導入前でも専任の技術者がアサインされ、様々な質問に対してすぐに的確な回答が得られるなど、アシストの手厚いサポートによって不安を払拭できました。そこで、2016年2月にProgress Corticonを導入しました。

最初の適用プロジェクトには、複雑な業務ルールや保険料計算ロジックをもつ「労働災害総合保険」の保険料見積りシステムを選定しました。当初はもっと簡単な保険商品のシステムに適用することも検討しましたが、既存の保険料見積りシステムが抱えるリスクを払拭する必要があったため、「労働災害総合保険」を対象にしました。

吉田氏 「労働災害総合保険」には、もともと代理店のPCで計算ができるオフラインソフトの保険料見積りシステムがありましたが、開発環境が最新のOSバージョンに未対応であり、バージョンアップするためには、多額のコストとかなりの期間を要するため、システム更改を躊躇していました。そのような状況の中、BRMS導入の実現に向けた検討が並行して進んでいたこともあり、今回の開発対象として「労働災害総合保険」を採用しました。

野口氏 開発パートナーには、技術力が高くBRMSを適用した開発実績が豊富な株式会社オージス総研（以下、オージス総研）を選定し、Progress Corticonの適用領域としては最もBRMSのメリットを発揮できる「保険料計算処理」と「データチェック処理」に絞ることにしました。



野口一臣氏

BRMSによる効率的な開発で オンタイムリリースを実現

「労働災害総合保険」の保険料見積りシステムは、2016年7月からオージス総研により開発を開始。Progress Corticonのルールの可視性を活かし、初期段階から日新火災海上保険の商品開発部門や、代理店サポート部門、事務企画部門などとも連携して、画面レイアウトの調整や、データチェック内容の確認などを話し合いながら進めていきました。

保険料計算処理では、商品開発部門が作成した計算式や料率テーブルが記述されているExcelシートを、そのままProgress Corticonに取り込めるようにしていたため、計算ルールとして容易に実装することができ、さらにテストを自動化したことで、想定した計算結果との突合チェックも短期間で実施できました。

データチェック処理では、まず最初にサーバ側のBRMSで管理するチェックと、PCクライアント側（画面上）で行うチェックの切り分けを行いました。例えば、商品規定（保険引受ルール）に関するチェックはサーバ側のBRMSで行い、半角／全角など文字属性のチェックなどは操作性を考慮してPCクライアント側で行うようにしました。今後の保守効率性など、BRMSの特性を活かすため、基本的にはBRMS側でチェックを行うこと

とし、PCクライアント側のチェックは必要最低限のものに絞りました。

野口氏 Progress Corticonは、テスト機能が充実していることと、日本語対応されているのが良い点だと思います。過去の開発案件でスクラッチ開発を行った際は、外部の委託業者との情報のやりとりで手間がかかり、テストにおいてもデータ連携がうまく行かず、工数増加やスケジュール遅延などの影響が発生することもありました。今回の開発では、Progress Corticonの使いやすさや技術力の高いオージス総研のサポートもあり、当社側の開発担当はほぼ1名で対応できました。

新システムの開発は、当初の予定通り6ヵ月間で完了して、2017年1月末にサービスインしました。

吉田氏 Progress Corticonの最大の導入効果は、既存の見積りシステムを改修／継続使用した場合と比較し、開発期間が短縮できたことと開発コストが抑えられたことです。また、今回のシステムと同規模の見積りシステムの開発には、従来は約9ヵ月間かかっていた。それが6ヵ月で完了できたため、全体で3割程度は短縮できました。さらにBRMSを適用した箇所の開発だけみると、約50%の期間短縮が実現できました。

オンライン化できていない 保険商品を中心に横展開し、 自社内製化を目指す

日新情報システム開発では保険商品のシステム開発にはBRMSを適用するメリットがあると判断し、今後Progress Corticonの適用範囲を拡大し、現在稼働中の代理店システムでカバーできていない保険商品を中心に、保険料見積りシステムの開発の内製化を推進する予定です。

開発を担当したオージス総研では、ルールとシステムアーキテクチャの両方を日新情報システム開発社内に横展開できるように、構成は同じで商品だけを変更したり、ルールさえ変えれば、基本的なアーキテクチャを変えなくても別の保険商品に展開できる仕組みとなるような工夫を施しました。Progress Corticonは、特にユーザ・インターフェースが優れ、テスト機能も充実しているため、システム開発を内製化する際にも、大きな効果が出るBRMSであると評価しています。

日新情報システム開発では、今回の開発経験を踏まえ、今後のBRMSを用いたシステム開発の内製化に大きな期待を寄せています。

吉田氏 新規開発におけるコスト削減はもちろんのこと、今後の商品改定や保険料率改定にも、自社で短期間にコストを抑えて対応できる体制にして行きたいと考えています。また、保険料見積りシステム以外にも、数多くの複雑な保険事務へProgress Corticonを適用するなど、幅広い分野への展開が期待できます。